【 令和元年度 （後期） 学校評価及び学校関係者評価 】

確かな学力と豊かな心を育み、社会を生き抜くためのたくましさを持った生徒の育成

記述評価

中期目標	確かな学力の向上 （自己の目標に向かって伸びやかに成長する学校）		健康で心豊かな人間性の育成 （明るい挨拶と生徒がいきいきと活動できる安全・安心な学校）		社会を生き抜く力の育成 （将来の支えとなる社会を生き抜く力・土台を育む学校）		家庭・地域との連携 （家庭・地域の期待に応え、家庭・地域に信頼される学校）	
評価	◎	家庭学習の習慣化を学年対応で向上を！	◎	あの手この手の挨拶運動の工夫で挨拶を本物に！	◎	体験活動で本物にふれる！継続！	◎	保護者参加の機会を増やし、呼びかける！

【評価】３段階 （ A:十分に達成　B:おおむね達成　C:改善が必要 ）　【判定規準】A:肯定的90％以上　B:肯定的80％以上　C:79％以下 （アンケート結果A＋Bの％）

中期目標	重点目標 （評価内容）	評価指標	判定基準 ●生徒　○保護者　◎教師　★結果	前期 後期	自己評価 評価	成果と課題	今後の方向性（改善計画）	学校関係者評価 評価	
確かな学力の向上	①学びが楽しい学校づくり（楽習）	・体験学習（本物に触れる）や学び合いを充実させ、周りの人と共に考え、自分の考えを主体的に発信する。	（生徒アンケート） ●①学校で学ぶことは楽しい。	88.5% 87.1%	A A	○生徒アンケートでは，前期同様「学ぶことが楽しい」「友達と教えあったり、話し合ったりすることができた」「授業内容は分かりやすい」は，高い数値を保つことができた。 保護者アンケートでも「学校は授業を工夫して分かる授業作りに努めている」と回答した保護者も増えている。 教師側の授業改善が進んできた成果だと考えられる。 ○授業改善は進んできており「主体的で対話的な深い学び」の姿には近づいてきている。今後も続けていく必要がある。 △授業規律の徹底の部分でも，ほぼ前期と同様に高い数値を保つことができているが，「私語」の部分で少し低下している。 授業規律について共通理解を再び図る必要がある。 △「振り返りから，学んだことや新たな気づきの再確認ができている」が約8ポイント低下している。教師側の意識の低下が見られる可能性がある。また，生徒の『振り返り』に対する認識も深化してきたため評価が厳しくなったという側面もあるのではないか。どちらにしろ，今一度，全教員で取り組むという意識を確認する必要がある。 △生徒のがんばりの部分も多く見られる。教師側が少しその部分に甘えているという側面もあるのではないか。もう一度，自分たちの実践を問い直す必要がある。 △家庭学習時間を改善方向に進めることができなかった。（3年生を除く）宿題の出し方や負荷についても，学年や全校での共通認識が必要である	・「振り返りから授業改善へ」という研究のスタイルは，方向性としては間違っていない。さらに，授業改善へつなげていけるように全職員で意思統一を図り，研究を進めていく必要がある。 ・授業規律で少し教員側の意識が低下している面が見られる。目指す授業の姿を共通理解し，全教職員で「同じ方向性」での指導ができるようにしていく。 ・目指す「振り返り」の姿を，今一度，教員と生徒間での「共有」をすすめ，全校で取り組む意識を定着させていく。 ・「主体的・対話的で深い学び」への追求は，継続していく必要があるが，「分かる・できる」経験の積み重ねで，「問題が解ける」学力の定着と向上をはかる。 ・家庭学習について，研究推進委員会で検討して，学年に応じた負荷になるように工夫していく。	前期A 後期A	＜前期の意見＞ ○自ら進んでの意欲が弱いのではないか。 ○生徒アンケートの2，3年生の家庭学習の時間が少ない。 ・テスト期間中は家庭学習の時間は多いと感じている。今後は、テスト期間以外の普段の学習時間、学習習慣の定着に一層取り組んでもらいたい。 ○点数は良く、学力は高いが「表現力」などプレゼン能力が今後の生徒には求められる。インプットは良いが、アウトプットの部分を伸ばしてほしい。3分間スピーチなども一つの方法である。 →「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、グループでの学び合い・振り返りに力を入れ、思考・判断・表現力などを向上させていきたい。 ＜後期の意見＞ ・学習習慣に大きく影響を与えるのがゲームであると思う。最近の課題として、ゲーム依存症が心配である ・オンラインゲームのアンケートを実施した。課金の経験者も多く、金額も高額の生徒もいる。朝方までゲームをしている生徒もいる。 →4月に新入生にもアンケートを実施し、全校的な状況を把握する必要あり。メリハリをつけ、支配されずにゲームを支配する自己管理能力（セルフコントロール力）をつけたい。 →保護者の理解と協力が不可欠である。ネットトラブル防止講座で注意喚起する。
			●④友達と教え会ったり、話し合ったりすることができた。	94.6% 95.5%					
	②－１：基礎学力の確実な習得を図る	・補充学習、各種コンテスト、検定に取り組む。	（教員アンケート） ◎③読み・書き・計算・単語など基礎基本が身に付く指導を行っている。	100.0%	A A			前期A 後期A	
	②－２：家庭学習の習慣化	・宿題チェックを徹底し、家庭学習の習慣化を図る。	（家庭学習時間調査結果） ★⑳学年目標以上達成している。 （1年70分、2年80分、3年90分以上）	1年54%↓ 2年20%→ 3年79%↑	B B			前期B 後期B	
	③分かる授業と授業内容の定着を図る	・生徒が「授業内容が分かった、できるようになった」と感じ、国、県学力調査で国、県の平均を上回っている。	●②授業内容は分かりやすい。	94.9% 92.8%	A A			前期A 後期A	
			（保護者アンケート） ○②学校は、授業を工夫してわかる授業づくりに努めている。	85.8% 88.0%					
			（学力調査結果） ★県平均を上回っている。（県差：A＋15P以上、B＋5P、C県平均以下）	37点					
	④振り返りから授業改善へ （教師の授業力向上）	・次の学びや生活に生かす振り返りから授業改善を進める。	●⑥振り返りから学んだことや新たな気づきの再確認が出来ている。	92.4% 83.9%↓	B B			前期B 後期B	
			（授業自己分析結果） ★授業自己分析結果を向上させる。 全平均A:2.3以上　B：2.0以上　C：1.9以下						
	⑤学習規律の徹底し、落ち着いた学習環境	・授業規律（ベル着、聴き方等）を徹底し、落ち着いて学習に取り組んでいる。	●⑦チャイム着席をしっかり守ることができている	98.1% 99.3%	A A			前期A 後期A	
			●⑨私語をせず、授業に集中して取り組めている。	86.0% 81.9%					
			○④生徒たちは落ち着いて学習に取り組んでいる。	87.0% 87.3%					
健康で心豊か	①場に応じた礼法を身につける	・挨拶や返事など場に応じた礼法を身につけ行動する。	●⑩誰にでも、自ら進んで大きな声で挨拶をしている。	75.0% 75.2%	B B	○前期同様に全校生徒を挨拶運動に参加させる取り組みが2回実施できた。特に、体育祭後の団での挨拶運動は、声も大きく出ていて応援合戦の成果が表れていた。また、3年生は進路に向けての意識も高くなってきているので、83%の生徒が自分から挨拶をしていると答えている。保護者のアンケートでも4ポイント上がっており取り組みの成果が表れていると感じる。 △1・2年生では、まだまだ他の項目と比較すると進んで挨拶の割合が75%なので、まずは80%以上になるようにしたい。 ○思いやりや協力、感謝の心は、道徳の授業や係活動・委員会活動、さらには部活動はもちろん、大きな行事である体育祭や文化祭を通して前期以上に育ってきている。 ○規範意識の向上では、生徒会委員会が自分たちから授業のおきてや服装の決まりなどについて全校生徒に呼び掛けたり、家庭との連携を密にして理解を得たりしてきた成果が表れたと感じる。	・挨拶運動の取り組みは今後も継続し、「語先後礼」の伝統を引き継いでいく。 ・地域との連携を深め、いろいろな行事に参加したり、地域清掃や募金活動を行ったりして、地域の方とのコミュニケーションを広げる。	前期B 後期B	＜前期の意見＞ ○地域で様子を見ているが、よく挨拶をしてくれる。 ○積極的にしてくれる子もいるが、しない子もいる。 →挨拶の声は、まだまだ弱いと考えている。「思いが伝わる挨拶をしよう」「本物の挨拶をしよう」と呼び掛けていく。 ＜後期の意見＞ ○挨拶運動で、生徒の登校も早くなり、責任感も出てきていると感じる。 次年度もあの手この手で（体育祭の団・委員会・学級・部活動単位等）挨拶運動を展開し、さわやかな校風を創り上げたい。
			○⑦生徒はしっかりと挨拶や返事ができている。	82.7% 86.6%					
	②規範意識の向上と道徳実践力の育成	・社会的なルールや規範意識を高める。	●⑫人が困っているときは、進んで助けたり、協力したりできている。	93.6% 93.3%	A A			前期A 後期A	
			○⑥学校は、豊かな心（思いやり、感謝等）を育む活動を行っている。	80.9% 84.1%					
			○⑧学校はきまりを守るなど、基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。	84.5% 91.1%↑					

かな人間性の育成	③責任感・協調性の育成	・互いに認め合い、仲間と協働してものごとを創り出す。	●⑰自分の係の仕事を責任をもって行う。	95.5% 98.7%	A A	○前期以上に自分の仕事には責任を持ち、自問清掃にはしっかりと取り組んでいる生徒が増えた。 ○後期に2回のいじめアンケートを実施し2件の訴えがあったが、組織的に迅速に対応し今は訴えがない。教育相談も学期末に実施しており、生徒一人一人の悩みを聞き、担任だけでなく学年や部活動顧問、養護教諭など相談しやすい環境で対応できている。 △オンラインゲーム調査を行った（1・2年生対象）結果、かなりの生徒がオンラインゲームをしたことがあり、中には8時間以上、朝までした生徒もいる。2年生の後期より欠席が増えた生徒が出てきているが、関連性があるように感じる。 ○前期同様に、自分の健康については意識も高く、手洗い・うがい・歯磨きはきちんとできており、好き嫌いなく給食も食べている。また、部活動も休むことなく毎日の練習に取り組んでいる。	・いじめや不登校生徒の未然防止を図るためにも、日々の学校生活の中でアンテナを高く張って、少しでも気になることがあったら全職員で情報を共有し、家庭や地域と連携し、組織的に対応していかなければならない。	前期A 後期A	＜前期の意見＞ ○夏休み明けに不登校が増えるというニュースを聞いている。本校の状況はどうか。 →職員全体で、根気強く取り組む。 ＜後期の意見＞ ○新型コロナウイルスが心配である。 →感染拡大防止対応を徹底したい。 →卒業式についても、時間を短くするなどしていく。マスクの徹底。検温などの徹底をする。
			●⑱自問清掃にしっかり取り組めている。	94.3% 97.3%					
	④いじめ、不登校への未然防止	・いじめ、不登校の未然防止に取り組み、特別な対応が必要な時は、組織的に対応している。	●⑬友達の悪口を言ったり、嫌な思いをさせることはしなかった。	95.5% 94.0%	B B			前期B 後期B	
			○⑨学校は生徒の悩みや問題に適切に指導対応している。	80.7% 84.1%					
	⑤健康体力向上及び自己管理能力の育成	・心身ともにねばり強くたくましさを育成する。	●⑭自分の健康を守るために、歯磨き、手洗い等をきちんと行う。	96.8% 96.6%	A A			前期A 後期A	
			●⑯部活は休まず一生懸命頑張っている。	94.9% 96.3%					
社会を生き抜く力の育成	①本物に触れる機会を増やし、生徒の視野を広げる	1年　車椅子・アイマスク体験11月 職業人講話2月19日 のとてまり収穫1月 2年　修学旅行大相撲観戦9月 立志式2月 1，2年　部活動合同トレーニング1月 3年　幼児とのふれあい体験10	各学年に体験活動を設ける。 ★実施回数 ・A：各学年2回以上実施 ・B：各学年1回以上実施 ・C：実施せず	2回以上実施	年間で評価 A	○各学年とも2回以上の実施ができた。	・体験で学ぶことは大きく、実感を伴えるので大いに継続していきたい。	年間で評価	＜後期の意見＞ ○ゲームによらず、世界の情勢や変化を知り、まさしく社会を知る。視野が広がるのではないか。 →NIE教育で7社の新聞を配置し、購読しやすい環境を整えた。3年生は、SDGsについて、中学生議会でも意見を述べ、17のテーマについて新聞を制作して発表した。 →今年度は体験活動を重視し、各学年2回以上を目標に行ってきた。本物に触れる機会は意義あるものであると考え、次年度も行っていきたい。 →職業人講話など、保護者の参加も可能にして、呼びかけをしていきたい。
	②生徒のコミュニケーション力の育成	・学級活動、行事、体験活動、その他地域の行事等を通して、協力の大切さに気づかせ、人との関わり・コミュニケーション力を育成する。	●⑫進んで助けたり、協力したりできた。	93.6% 93.3%	A A	○文化祭や穴中タイムなどの行事の企画・運営に関して、生徒会執行部を中心に、意欲的に活動する姿が多く見られた。特に「振り返り」の時間を十分に確保したことで、生徒の達成感や満足感をより一層高めることができた。また普段の学校生活でも、あいさつ運動や放送、その他の活動に関して、真面目に活動に取り組んでいた。 △決められた活動や計画に関しては、真面目に取り組むが、自分たちから積極的に行事の企画するなどの力がまだまだ足りないと感じている。生徒の意識改革と、担当する教員の綿密な計画性が必要である。	・来年度前期も引き続き「振り返り」活動の充実を図る。 ・生徒会執行部だけでなく、各クラスの代議員、クラス全体を巻き込んだ生徒会運営を行う。 ・担当教員の役割分担、主となる担当教員の一本化を図ることで、よりスムーズな運営を行うようにする。	前期A 後期A	
			●⑬友達の悪口を言ったり、いやな思いをさせない。	95.5% 94.0%					
	③生徒会の自主的活動の充実	・体育祭、文化祭、穴中タイム、地域清掃、募金活動などの企画運営などを通して実践意欲・実践力が向上している。	★振り返り（変容を分析する）感想文 事後アンケート（自主性・達成感項目） ・いじめ防止集会（穴中タイム） ・災害義援金　・ﾃｺﾝﾄﾞｰﾁｰﾑ交流 ・ｶﾌｪﾛｰｴﾙスタッフ ・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾁｬﾚﾝｼﾞ　・赤い羽根募金 ・健民ボランティア賞（知事表彰）	年間で評価	年間 A			年間評価	
	④キャリア教育の充実	・各種体験学習により望ましい勤労観・進路観を育み、生き方指導を行う。 1年　職業人講話　2月 2年　高校調べ発表会1月 3年　先輩の話を聞く会（大学生）12月	○⑩進路（生き方）に関する指導・相談が行われている。 ★振り返り（変容を分析する） ・事後アンケート ・振り返り感想文	87.0% 87.3% 年間で評価	年間 A	1年外部の方を招いての体験的な活動を行うことができた。体験を重ねる中で，会の運営や分担された仕事に対する責任感などを育むことができた。 2年 ICTを活用し、プレゼンソフトにより発表会を行い、3年進路への意識付けと進路への知識・理解を深めることができた。 3年本校卒業生の話であり、話題が身近に感じ取れた。	・キャリアパスポートが次年度から実施される。進路についての考えや、学びの変遷・振り返りを紙面に残し、高校につなげていく取り組みである。進路意識の向上や望ましい勤労観の育成につながる意味のあるものにしていきたい。	年間評価	
家庭地域連携	①家庭、地域との連携協力体制の確立	・学校は積極的に情報発信を行い、保護者は学校の教育方針を理解し、連携協力関係が作られている。また、学校は、保護者が学校へ足を運ぶ機会をつくっている。	○①学校は,教育方針や教育活動の様子を分かりやすく伝えている。	93.2% 93.0%	A A	○学校だより、ホームページ等で情報発信を行えた。 ○アンケートのEわからないの数値が改善傾向にある。 ○部活動合同ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞの参加を呼び掛けた。 ○後期の体育祭・文化祭の参加率は高かった。 ○育友会各専門委員会の活動が計画的かつスムーズに実施できた。 △7月の学校公開日・学年懇談会の参加人数が少ないことが課題である。	・学校だよりの充実。ホームページのアクセス数も多い。今後も継続して、情報発信に努める。 ・生徒の姿を見に来て頂くよう呼びかけを行う。例えば職業人講話でも保護者に参加の声掛けをする等、気軽に学校に足を運べるようにする。 ・道徳の授業参観を行った。保護者参加の場面もあり、より学校の様子が分かるような社会に開かれた学校づくりをどんどん行う。 ・町のｲﾍﾞﾝﾄにも積極的に参加する。	前期A 後期	＜前期の意見＞ ○連携は、十分図られている。→より積極的に生徒が町のイベントに参加する。できれば、スタッフとして運営に参加したい。→昨年に続き、ｶﾌｪﾛｰｴﾙに参加予定。→成長に良い。商工会歓迎。 ＜後期の意見＞
			○⑭学校と保護者・地域との協力連携が効果的に行われている。	83.3% 84.1%					
働き方改革	①業務の効率化を図り、ワークライフバランスに努める	・効率的に業務を遂行している。 ・ワークライフバランスにつとめている	（定時退校日＝毎月1回） （部活動休養日＝平日1日・休日1日） ◎⑱業務の効率化を進めている ◎⑲ワークライフバランスにつとめる。	30.0% 45.0%	C B	○部活動休養日の厳守。曜日入れ替えなど工夫。○8時には家で食事をとるように意識の変化を求める。 △80時間超えの職員、4月6人、5月12人、6月13人、7月3人、9月7人、10月9人、11月4人、12月1人、1月2人である。職員の月時間外平均時間は、9月68、10月80、11月62、12月55、1月56時間で5ヵ月平均64時間と前期より大幅改善傾向。 △毎日3時間の時間外勤務は部活動が要因。	・計画性を持って段取りをする。・仕事に優先順位をつける。・チームで分掌を実行。朝の時間を活用する。会議のスリム化。・ワークライフバランスの勧めで自己研鑽の機会を呼びかける。・部活動の複数顧問制で負担の軽減の工夫。・毎月半ばで時間外40時間を超える職員に声掛け。・80時間の中でやりくりやメリハリをする発想の転換で制限の中で効率的に行う工夫。	前期C 後期	＜後期の意見＞ →次年度、7月の学校公開の際には、ネットトラブル防止の講座を企画し、壮行式などを見る機会を設けるなどして、来校者を増やしていく。 →今年の部活動合同ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞは、保護者に参加も可能な案内を出したところ、若干の参加があった。今後、行事や授業でも参観が可能な行事があれば案内をしていこうと考えている。
			（勤務時間調査） ★時間外勤務を月80時間以内とする。 A70h以内　B80h以内　C90h以内	85時間 64時間 ↓					